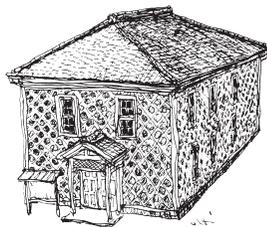


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、ディベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。

言葉の力

言葉は心に響き、人を動かす力を持っています。言葉は人を励まし、人を導く力となります。言葉によって人は結ばれ、言葉を通じて絆を深めていきます。東日本大震災という未曾有の大災害に直面し、言葉の力を私たちは身を以て感じてきました。慶應義塾は言葉を大切にしてきた学塾です。

創始者福澤諭吉先生は、新たな知見への窓を拓く外国語の習得を学問の礎とされましたが、それは言葉が知識に到達するための道具だからではありません。言葉への鋭敏な感覚は人格を陶冶し、その精緻な構造分析は論理的思考力を高めます。言葉は知の基盤を形作ると同時に、表現し行動する力を生み出します。言葉によって拓かれた知の水平線は、どこまで行っても終わりがなく、常に新たな世界を見せてくれます。

技術の進歩により情報の共時性が一層高まり、ほぼ同時に異空間の出来事を知ることができるばかりか、情報の受け手がすぐさま発信者となり、共感する心を表現するようになりました。人の間を行きかう言葉は、他者に寄り添い、共感する心を育み

●言語文化研究所長

い
わ
な
み
あ
つ
こ
岩波敦子

ますが、リアルな体験を伴わない言葉には限界があります。言葉の力は、身体に根差した五感から生まれてくるものだからです。大学の秋入学が議論を呼んでいます。日本から異文化に飛び込んでいく学生が減っているのはカリキュラム上の障壁だけではなく、電子媒体を通じた擬似体験に慣れ、実体験を通じて知識獲得が軽視されているからのように思います。

言葉を手掛かりに人間の営みを探究する研究者たちが集う言語文化研究所は、東洋の諸言語と哲学思想、西洋古典、言語学を三つの柱として、小泉信三塾長のもと西脇順三郎名誉教授の首唱により語学研究所として創立されてから今年70周年、その後言語文化研究所と名称を変更し、文学部より井筒俊彦、辻直四郎両教授を専任教授に迎え、柱の一つに西洋中世の思想、文化を加えて50周年を迎えます。

先達に対する敬意を忘れず、自分の視点で知を体系化し独自の道を切り拓くという建学の精神を大切に、言葉の持つ創造力を、これからも多角的視点からしっかりと発信していきましょう。